

写真王

お客様とキタムラをつなぐ
コミュニケーション情報誌

カメラのキタムラ広報室
〒222 横浜市港北区新横浜2-4-1
☎045-476-0777

カメラとビデオのビッグチェーン



平成7年12月1日発行 季刊第15号

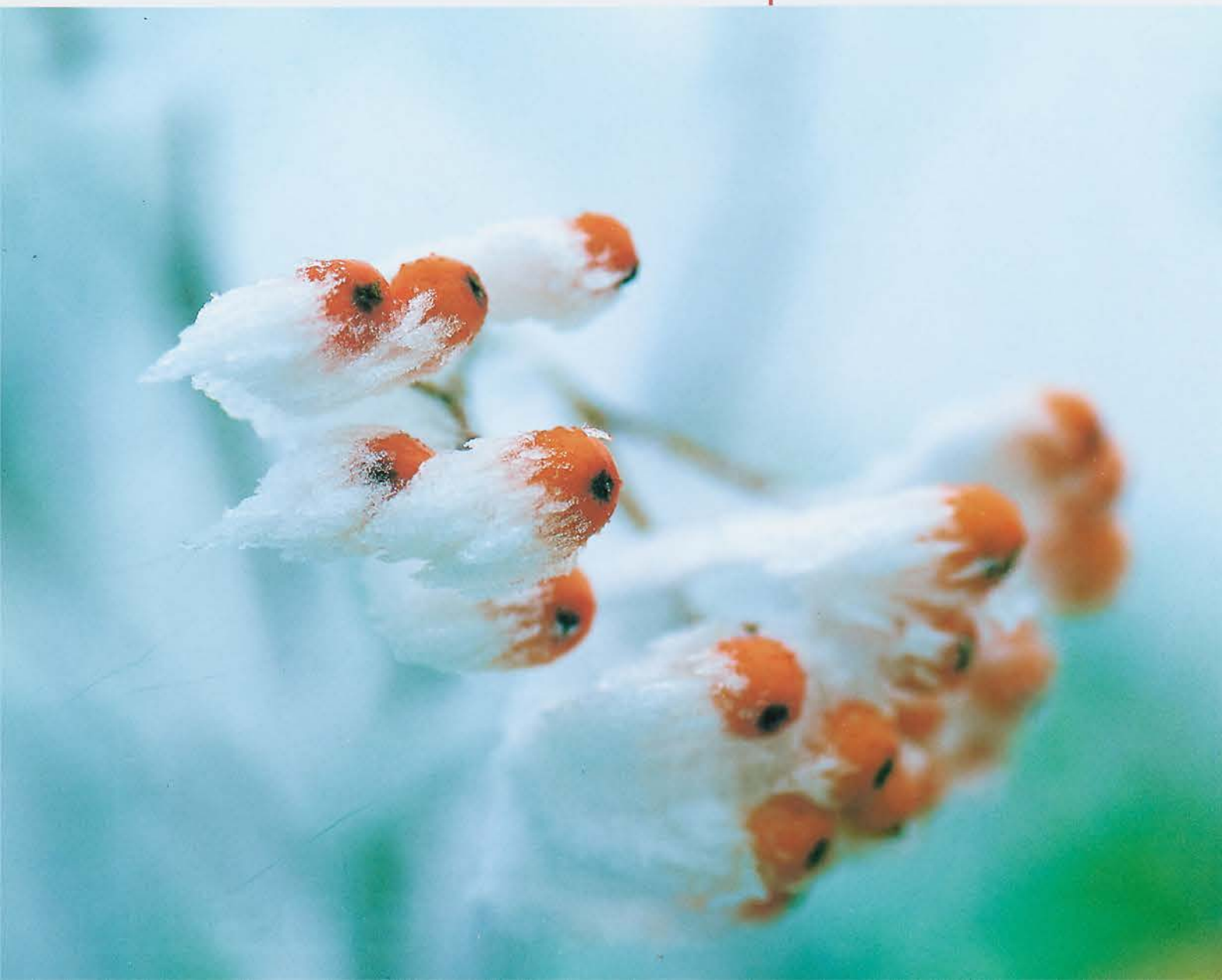
Vol.15 Winter

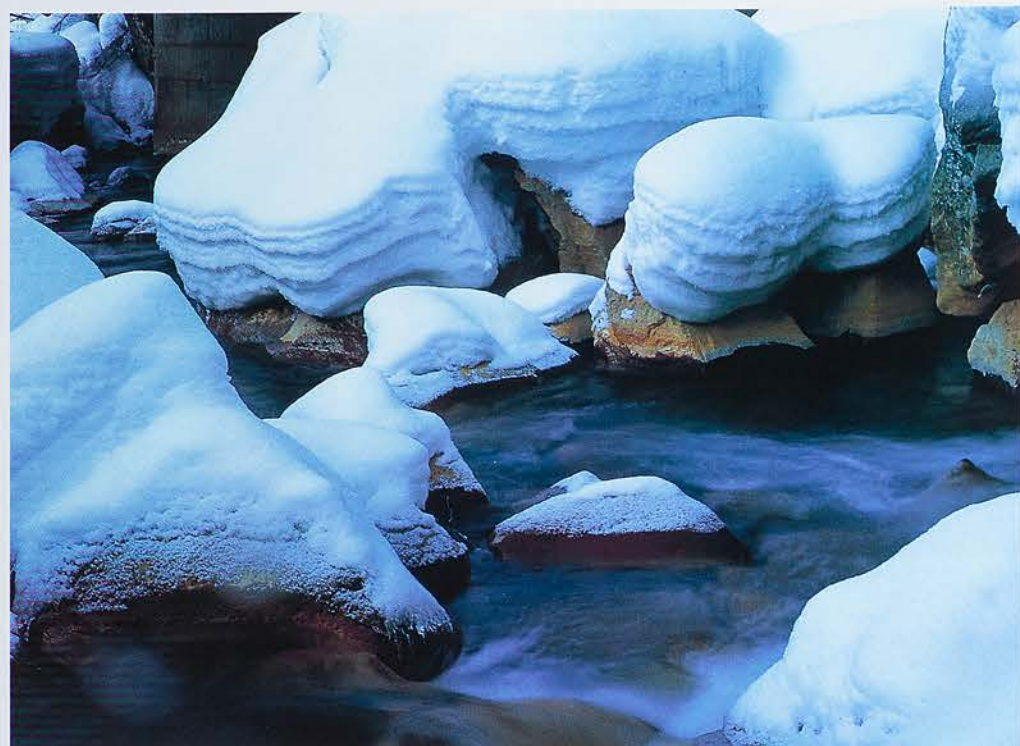
特集



神聖さ、清楚さへの願いを担う色

白一色の世界の中で、際だって美しい紅い実。寒風が容赦なくその実に吹きつける。ナナカマドの実は、砂糖菓子に見えた。
■カメラ：ペンタックス645 レンズ：SMCペンタックスA645マクロ120mmF4 絞り：f4 AE フィルム：ベルビア 円偏光フィルター・三脚使用 撮影地：秋田駒ヶ岳(秋田県田沢湖町)撮影：丹地敏明氏





幾重にも重なってきた降雪の断層が、時間の経過を示していた。エンドレスに流れる水も時間と空間から生まれる。
 ■カメラ：ペンタックス645
 レンズ：SMCペンタックスA★645 300mmF4ED[IF] 絞り：f8 AE
 円偏光フィルター フィルム：ベルビア
 撮影地：先達川（秋田県田沢湖町）<撮影>丹地敏明氏



今冬一番の大雪に埋もれた水上駅構内を、猛然と出発するデゴイチ。雪に挑む蒸気機関車の姿はまさに「鋼鉄の馬」である（JR東日本上越線水上駅構内/D51498+C5836
 ■カメラ：キヤノンF1レンズ・ニューFD500mm F4.5
 絞り：f9.5 シャッタースピード：1/250
 フィルム：ベルビア+1EV <撮影>岡正樹氏

キタムラ・インフォメーション	18
第3回チビッコ写真コンテスト 入選作品発表	19
読者のページ 写友会ふれあい広場	20
プレゼントが当たるノクロスワードパズル	20
編集後記	20

連載記事

ぶらりわが街「札幌」有村易さん	9
THEフォトワールド③	10
鉄道写真の世界 岡正樹氏インタビュー	12
カメラメーカー歴史探訪②キヤノン編	14
フォトライフ ステップアップレッスン③	17
シャッタースピードを操作して写真表現の幅を広げよう	17
知って得する写真おもしろ話⑦	17
今も生き続けるライカ神話	17

特集

神聖さ、清楚さへの願いを担う色

丹地敏明氏インタビュー

雪や氷の持つ白さを、自分の感性で表現したい。

丹地敏明先生がおすすめる「雪景色」ポイント

求められていたのは、内なる進化だ。
 EOS-1N誕生。



写真家の道具と呼ぶにふさわしい機能、性能、使い心地。すべてにおいて最先端であり続けるために。揺るぎない実績を礎に、いま新たなる完成域へ。待望のEOS-1N。



EOS-1Nメーカー希望小売価格
 EOS-1Nボディ……………¥215,000(税別) EOS-1N DPボディ……………¥230,000(税別)
 EOS-1N HSボディ……………¥265,000(税別) EOS-1N RSボディ……………¥320,000(税別)
 EF50mmF1.4USM……………¥49,000(税別)
 カタログのご請求は、〒108-11 東京都港区三田3-12-15 東急三田ビル キヤノン販売株式会社 EOS-1N係まで、おハガキでどうぞ。 キヤノン株式会社・キヤノン販売株式会社

Canon EOS-1N

神聖さ、清楚さへの願いを担う色



日本人にとっての「白」という色は、古来より特別な意味を持っていました。神の前において身を清め、心を清める神聖な色。つまり、汚れない無垢で純粹な色として、用いられてきたのです。

それが最も端的に表されているもののひとつが、白装束でしょう。滝に打たれてみそぎをする行者、そして日本刀を鍛える刀匠なども、白装束に身を包み、心身を清めるのが習

わしとされています。さらには結婚式で花嫁がまとう白無垢なども、神の前において、清楚さを表すものと考えられます。

今でこそ、白い布地や衣装も簡単に手に入りますが、大昔の晒しによる漂白技術では、純白の布はなかなか得がたいものであったのです。したがって、古代の人々にとって白は、おろそかに身につけることはできず、神に近づける憧れの色だったのでしょう。

一方、日本最古の和歌集である『万葉集』の中に「白波」「白玉」「白雪」「白たへ」などの言葉が多く見られることから、日本語の通常会話や表現には、昔から「白」が頻繁に使われていたことが伺い知れます。現在でも良く使われる言葉の中にも、「白昼」「白紙」「白米」など、明るさや素の状態を比喩的に表現する場合などに、「白」は多く用いられ、我々日本人の暮らしと感性に、豊かな広がりを与えています。

私たち日本人の生活環境が、大自然のもとから雪や霜、氷などに見舞われる冬は、こうした「白の感性」を最も意識させられる季節です。芸術家や文人ならずとも、その美しい白さに込められた情緒や神秘性に、心惹かれることでしょう。「白」の持つ純粹で神聖なイメージは、時代や地域性を越えて、私たちの心の中に果てしなく広がっているのです。



梅の季節に東京で珍しく雪が降った。近くの新宿御苑は、モチーフの豊富な場所だ。梅の花に重い雪が乗って、苦しそうな表情をしていた。
■カメラ：ペンタックス645 レンズ：SMCペンタックスA645マクロ120mm F4 絞り：f6 AE フィルム：プロビア 円偏光フィルター・三脚使用
撮影地：新宿御苑（東京都新宿区）

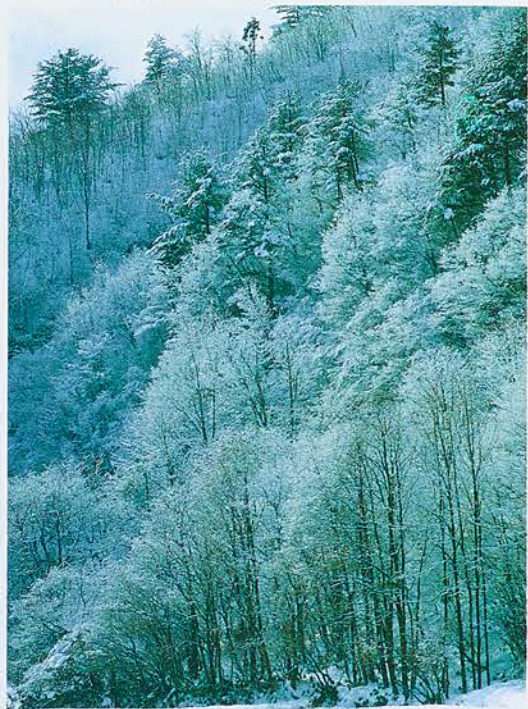


強風によってできた氷結が、ダムの中で流氷のように押し寄せられ、珍しい模様を作っていた。■カメラ：ペンタックスZ11P レンズ：SMCペンタックスFA*300mm F4.5 ED [IF] 絞り：f11 AE フィルム：PKM 円偏光フィルター・三脚使用
撮影地：只見川滝ダム（福島県金山町）



北海道の三大ホワイトは、粉雪の白、流水の白、そして丹頂の白だ。丹頂の白には、純真さと気高さを感じる。
■カメラ：ペンタックス645 レンズ：SMCペンタックスA*645 600mm F5.6 ED [IF] 絞り：f8 AE フィルム：ベルビア 円偏光フィルター・三脚使用
撮影地：丹頂観察センター（北海道阿寒町）

太陽光が当たっているときは、自ら動いて光を演出する。半逆光で見た樹氷は一段と美しかった。
■カメラ：ペンタックス645 レンズ：SMCペンタックスA645 200mm F4 絞り：f11 AE フィルム：ベルビア 円偏光フィルター・三脚使用
撮影地：田沢湖付近（秋田県田沢湖町）



舞い降りる雪が民家の板塀に浮きでて美しく感じた。シャッタースピードを変化させて撮影した。
■カメラ：ペンタックス645 レンズ：SMCペンタックスA645 75mm F2.8 絞り：f8 AE フィルム：ベルビア 円偏光フィルター・三脚使用
撮影地：角館（秋田県角館町）

光を受けて見ると立体感がでる。雪のフォームが逆光線によって生きる。
■カメラ：ペンタックス645 レンズ：SMCペンタックスA645 35mm F3.5 絞り：f22 AE フィルム：ベルビア 円偏光フィルター・三脚使用
撮影地：田沢湖（秋田県田沢湖町）





雪や氷の持つ白さを、自分の感性で表現したい。

丹地敏明へ写真家へ

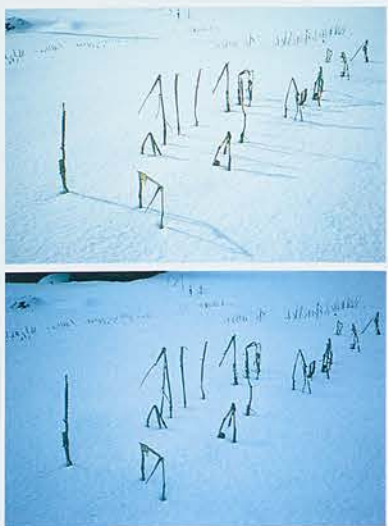
「白」は「静けさ」や「無の境地」の象徴でもあり、文学や芸術作品において、冬の代表的なモチーフとして雪が多く用いられるのも、こうした感性と無関係ではないでしょう。写真家の立場からこの「白」という色を強く意識し、雪や氷など、冬の風景をモチーフとした作品も多い丹地敏明氏に、「白」の関わりについて語っていただきました。

※なお、表紙及び特集ページに掲載した写真は、すべて丹地氏の作品です。

白は特別な意味を持った、とても大切な色なんです。

数十年前、私が写真を始めた頃は、まだモノクロが主流でしたから、「写真の基本は白である」といったことを教えられたものです。カラーが普通になった現在でも、「すべての色の基準は白である」ということが通用しますから、写真表現にとって、白はとても大切な色なんです。一般的に白という色を考えても、「神聖な色」「汚したくない清らかさ」「潔白さ」といったイメージがあり、やはり我々にとって、特別な意味を持っていると思います。

このような白という色を、私が最も意識して撮るモチーフといえば、やはり雪ですね。雪の白さから感じられる寒さや冷たさ、そして静けさや寂しさなどを、いかに表現するか。ただしそれは、頭で考えるよりも、現場に立った時に、自分の五感が受け取る感覚で判断するものです。ある時は、腰まで雪につかり、それを掻き分けながら、撮影場所に到着する。自然を肌で感じることも、良い作品作



太陽が当たった雪と翳った雪では、色の出方が違うことを認識するとイメージが深まる。
■カメラ：ペンタックスZ1-P レンズ：SMCペンタックスFA★ズーム80-200mm F 2.8ED(IF) 絞り：f8 AE フィルム：プロビア 円偏光フィルター・三脚使用
撮影地：下北半島(青森県東通村)



若木の芽吹きを包んだ氷が、光彩を放って輝いていた。透明感のある氷の水面の反射を完全に除去するために、円偏光フィルターでバックの水面の反射を完全に除去した。
■カメラ：ペンタックス645 レンズ：SMCペンタックスA645 マクロ120mm F4 絞り：f8 AE フィルム：ベルビア 円偏光フィルター・三脚使用 撮影地：花園溪谷(茨城県北茨城市)



霜が降りた朝はフォトジェニックだ。早起きして野原を散歩すると、いろいろな出会いがある。
■カメラ：ペンタックス645 レンズ：SMCペンタックスA645 マクロ120mm F4 絞り：f8 AE フィルム：プロビア 円偏光フィルター・三脚使用 撮影地：吉備高原(岡山県賀陽町)



たんじ としあき
1936年広島生まれ。福山工業高校卒業。出版社の写真部勤務を経てフリーランスとなる。風景をはじめ、民家、伝統工芸、職人、刀剣など撮影対象は多岐にわたっている。山陽放送他で95年10月-12月放送の「テレビ写真教室」に出演。主な著書：「美しい日本の旅」(学習研究社)、「日本の民家」(山と溪谷社)、「森の水音をきく」(世界文化社)、「日本の伝統工芸」(ぎょうせい)、「変幻譜」(芸文社)など。

りにつながってゆくんです。また、同じく白い被写体でも雲海などは、綿のような柔らかさ、温かみを感じられますよね。だから当然表現の方向も違ってくるわけです。
雪が積もった風景の女性的な曲線に惹かれるんです。

私は自然を被写体とした時に、いつも「女性」をイメージしているんですが、雪というのは特に女性的な美しさを持つモチーフですね。私は写真を撮る上で「線」というものを特に大切に考えていますが、元はゴツゴツした岩場であっても、雪が積もることによって、丸みを持った、なだらかで柔らかい曲線が生まれ出されるんです。だから雪が積もった風景には、その女性的な曲線が、とても美しく感じられるんです。

また、冬の風景としては、水も大変魅力的なモチーフですね。天然の氷片をひとつひとつ見てみると、同じ形のものはないんです。雪の美しさとはまた違った、まばゆい輝きが氷にはあるんです。氷といえば、北海道のオホーツク海を見た

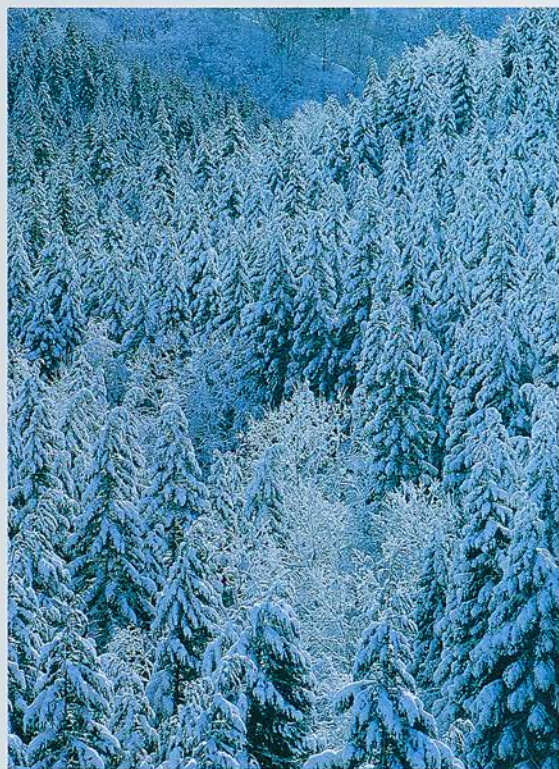
流水は、私にとって最も印象的だったもののひとつです。ただ白だけでなく汚れにまみれており、はるか遠方より何千キロもの長旅を経てきたという壮絶さに、言葉では表せないような感動を覚えました。また、流水を近くでよく見ると、内面がエメラルドグリーンのような色を帯びた透明感を持っており、その独特の美しさは忘れられませんよ。
写真における白の扱いは難しく、またそれが面白くもあるんです。

一面の雪景色のような「全体のトーンを作る白」と、渓谷の中を流れるひとすじの水のような「ポイントとなって存在を主張する白」のふたつがあるんです。だから、写真における白の扱いというのは非常に難しいし、またそれが面白いところもあるんです。雪に限って言えば、撮影者の感じ方によって、様々な撮り方が考えられます。それと自然の場合、自分が撮りたい状況というのが必ず用意されているわけではなく、偶然の出会いによる部分が大きいです。だからその時々々に自分が現場で目にした風景を、いかに感じて自分なりに表現するかが大切なんです。自分なりの感じ方を大事にして、自由な発想で個性のある写真を撮ること、そしてフィルムを惜しまずに、ひとつの被写体に対して様々な撮影を試み、数多く撮ることを、皆さんがいきやすいということもいえます。つまり、

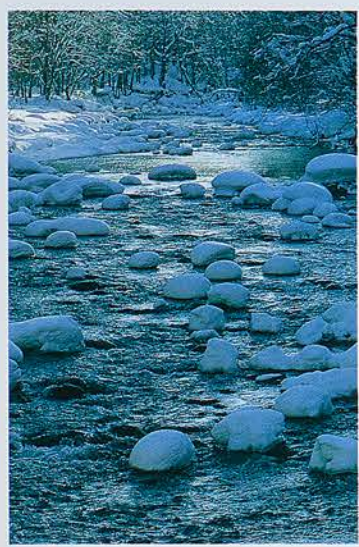


氷の質感と流れる水の柔らかさを長時間露光で対比してみた。
■カメラ：ペンタックス645 レンズ：SMCペンタックスA645 200mm F4 絞り：f22 AE フィルム：ベルビア 円偏光フィルター・三脚使用
撮影地：花園溪谷(茨城県北茨城市)

積雪の特徴は、なだらかな曲線だ。女性的な曲線を生かすフレーミングを心がけた。
■カメラ：ペンタックス645 レンズ：SMCペンタックスA645 300mm F4 (IF) 絞り：f8 AE フィルム：ベルビア 円偏光フィルター・三脚使用
撮影地：田沢湖(秋田県田沢湖町)



樹木を上から見る機会は少ない。樹海ラインの橋の上から見る景観は、繊細した樹木を感じた。
■カメラ：ペンタックス645 レンズ：SMCペンタックスA645 150mm F3.5 絞り：f16 AE フィルム：ベルビア 円偏光フィルター・三脚使用
撮影地：樹海ライン(秋田県小坂町)



初夏から秋にかけて華やいて賑わった奥入瀬渓谷は、せせらぎの音だけの静寂な一時を取り戻す。
■カメラ：ペンタックスZ1-P レンズ：SMCペンタックスFA★ズーム28-70mm F2.8 AL 絞り：f4 AE フィルム：ベルビア 三脚使用
撮影地：奥入瀬渓谷(青森県十和田町)



丹地敏明先生がおすすめる「雪景色」ポイント

冬の代表的な写真モチーフといえば、真っ白な「雪」。「白」という色の美しさを、最も意識させられる被写体はやはり雪。だと語る写真家・丹地敏明氏に、アマチュアカメラマンの皆さんにもおすすめできる、各地の「雪景色」撮影ポイントを、ご自身の作品により紹介していただきました。

※ここにご紹介した場所で撮影する場合は、常識的なエチケット・マナーを守るようにしましょう。特に撮影地の所有者及び近隣に迷惑をかけないように、また自然環境への配慮などを忘れないよう、ご注意ください。



何千キロもの長旅を終えて網走の海岸に押し上げられた流水。その上で撮影していると、流水がきしむ音が聞こえ緊張する。
■カメラ：ペンタックス645 レンズ：SMCペンタックスA645 35mmF3.5
絞り：f22 AE フィルム：ベルビア 円偏光フィルター・三脚使用
撮影地：原生花園付近の海岸（釧網本線きたはま駅下車）



北風が吹きつける下北半島の尻屋崎には、寒立馬と呼ばれる放牧された馬がいる。鼻で雪をかき分け、その下の草を食む。
■カメラ：ペンタックスZ1-P レンズ：SMCペンタックスFA★ズーム80-200mm F2.8ED(IF) 絞り：f4 AE フィルム：プロビア 円偏光フィルター・手持ち撮影 撮影地：下北半島尻屋崎（大湊線しもきた下車タクシーで約40分）



冬の谷は、雪崩に注意しなければならない。流れに近づいて見ると小さな氷柱が流木についていた。
■カメラ：ペンタックスZ1-P
レンズ：SMCペンタックスFA★ズーム28-70mmF2.8AL
絞り：f4 AE フィルム：ベルビア 手持ち撮影
撮影地：抱返り溪谷（秋田県角館町）



湖面が氷結するとさまざまな形を作る。玉川ダムの橋の上から降りしきる雪とその形をフレーミングした。
■カメラ：ペンタックス645 レンズ：SMCペンタックスA 645 75mm F2.8
絞り：f8 AE フィルム：ベルビア 円偏光フィルター・三脚使用
撮影地：玉川ダム（秋田県田沢湖町）



霧氷は、繊細で清楚な白い色彩が青空とお似合いだ。白が弾けるような木を選んだ。
■カメラ：ペンタックス645 レンズ：SMCペンタックス★645 300mm F4(IF)
絞り：f8 AE フィルム：ベルビア 円偏光フィルター・三脚使用
撮影地：樹海ライン（秋田県小坂町）



白川郷の代表的なポイントから、薄暮状態を選んで、暮れなずむ雰囲気。車のライトを流して撮った。
■カメラ：ペンタックス645 レンズ：SMCペンタックス75mmF2.8
絞り：f8 AE フィルム：ベルビア 円偏光フィルター・三脚使用
撮影地：白川郷（岐阜県白川村）



東京に雪が降るのは珍しくなった。開門と同時に御苑に入って足跡がつかない時間で撮影を切り上げた。
■カメラ：ペンタックス645 レンズ：SMCペンタックスA645 75mmF2.8 絞り：f11 AE
フィルム：ベルビア 円偏光フィルター・三脚使用
撮影地：新宿御苑（東京都新宿区）



ブリザードのような猛吹雪だった。吹雪の向こうは磐越自動車道の架橋が続く。吹雪はいらぬものを消し去ってくれた。
■カメラ：ペンタックスZ1-P レンズ：SMCペンタックスFA★24mmF2AL(IF) 絞り：f4 AE フィルム：PKM
手持ち撮影 撮影地：磐梯町（福島県磐梯町）



水墨画のようなモノトーンの世界を作り出すのは、曇天の日しかない。
■カメラ：ペンタックスZ1-P レンズ：SMCペンタックスFA★24mmF2AL(IF) 絞り：f4 AE フィルム：PKM
手持ち撮影 撮影地：十和田湖諏訪台（青森県十和田町）



雪が地面の色を整理してくれ、梅の古木の形を絵画的に引き出していた。
■カメラ：ペンタックス645 レンズ：SMCペンタックス★645 300mmF4(IF) 絞り：f8 AE
フィルム：ベルビア 円偏光フィルター・三脚使用
撮影地：修善寺梅林（静岡県修善寺町）



喜茂別で偶然見つけた芝桜。尻別川の堤防に植えられていた。天気も良く、曇も良い位置にあったので、すぐカメラを出してAE撮影。
 ■カメラ：マミヤ645 プロ レンズ：マミヤセコール45mm
 絞り：f32 AE フィルム：ベルビア PLフィルター使用

私が生まれ育った札幌市のいい所は、北海道の中心として、おいしい食べ物すべて集まってくる事、そして海・山が近くにあり、我々写真好きにとっては、撮影に行くのにも都合なことです。休みの日には、毎週のように風景写真も撮りに出かけます。特に私が力を入れているのは、「北海道の富士」と呼ばれる羊蹄山で、桜や田植えの風景、そして芋の収穫など、四季を通じて様々な自然をバックに、この山を撮り続けています。また、見る位置によって違った顔があり、それぞれが素晴らしい形をしているのも羊蹄山の魅力ですね。そのほかでは前田真三先生も撮っておられる上富良野から美瑛の方もいい所です。季節や天候に関わらず、いつ来てもきれいな風景が撮れるので、道外から来られる方にもおすすめです。

ぶらり
わが街

札幌

北海道札幌市

有村 易

さん

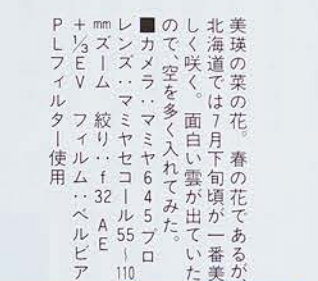
全国各地で熱心に撮影活動を行っている写真ファンの方々に、地元の名所を自身の作品で紹介していただくこのコーナー。今回は、風景写真が大好きで北海道の雄大な自然を撮り続けることに情熱を燃やしておられるという、札幌市にお住まいの有村易さんにご登場いただきます。



美瑛の北側・北瑛の麦畑。畑の曲線の感じがとても気に入ったので撮影した。
 ■カメラ：マミヤRZ67プロII
 レンズ：マミヤセコール110mm
 絞り：f32 シャッタースピード：1/15秒
 フィルム：ベルビア PLフィルター使用



中山峠から見る羊蹄山は一番美しい。尻別岳とのツーショット風景はアンダーになりがちなので露出に注意した。
 ■カメラ：マミヤ645プロII
 レンズ：マミヤセコール45mm
 絞り：f22
 シャッタースピード：1/30秒
 フィルム：ベルビア PLフィルター使用



美瑛の菜の花。春の花であるが北海道では7月下旬が一番美しく咲く。面白い雲が出ていたので、空を多く入れてみた。
 ■カメラ：マミヤ645プロII
 レンズ：マミヤセコール55mm
 mmズーム 絞り：f32 AE
 +1/3EV フィルム：ベルビア PLフィルター使用



晩秋の羊蹄山麓をニセコ側より撮影。早朝、朝日の出る寸前のため、多少逆光で1/3補正する。
 ■カメラ：マミヤRZ67プロII
 レンズ：マミヤセコール110mm
 絞り：f32 AE +1/3EV フィルム：プロビア



丘の町・美瑛はカメラマンにとって最高の場所。毎年風景が変わるので飽きることがない。
 ■カメラ：マミヤ645プロII
 レンズ：マミヤセコール45mm
 mmズーム 絞り：f32 AE
 フィルム：ベルビア PLフィルター使用



有村易氏
 北海道を中心に自然風景写真に取り組む写真歴15年のベテラン。桜前線・紅葉前線フォトコンテストでも2回入選。北海道2科会写真部所属。



Nikon



人への優しさをめざした、
フラッシュ内蔵AF一眼レフ。

Nikon F70D
PANORAMA



■大型液晶表示パネルによる、こちよい操作性。■光の状態を知る3D-8分割マルチパターン測光。■感性に応える多機能スピードライト。■最適な光をあてる3D-マルチBL測光。■しぼりと手になじむワレム。■静かな操作音。■すばやく確実なオートフォーカス。■思いをかたちにするイメージプログラム。■撮る楽しさを広げる外部切り換え式パノラマ。

カタログをご用意しています。機種名、銘名をご明記の上、100-81東京中央郵便局私書箱1268号 株式会社ニコン お客様相談室宛に請求ください。

希望小売価格(税別) ボディ本体 ¥95,000 (ブラックのみ/ストラップ付)
 ■AFズームニコール28-80mmF3.5-5.6D付 ¥128,000

Nikon 株式会社ニコン 本社 100東京都千代田区丸の内3-2-3(富士ビル)

そろそろ「いい写真が撮りたい」という方に。

(コンパクトカメラ感覚で一眼レフの写真が撮れる。4倍ズーム一体型一眼レフ、オリンパスから。)



大光量フラッシュ搭載、4倍ズーム一眼

新登場 L-10 SUPER

希望小売価格(税別) ¥71,500 (オプション1付/本体)
 アクアシンクサーC2付

OLYMPUS

(人から発想します。オリンパス)

離れていても大きく撮れる、
28~110mmの4倍ズーム。



4×ZOOM

かしく光る、
大光量ツインフラッシュ。

規格GN18.5

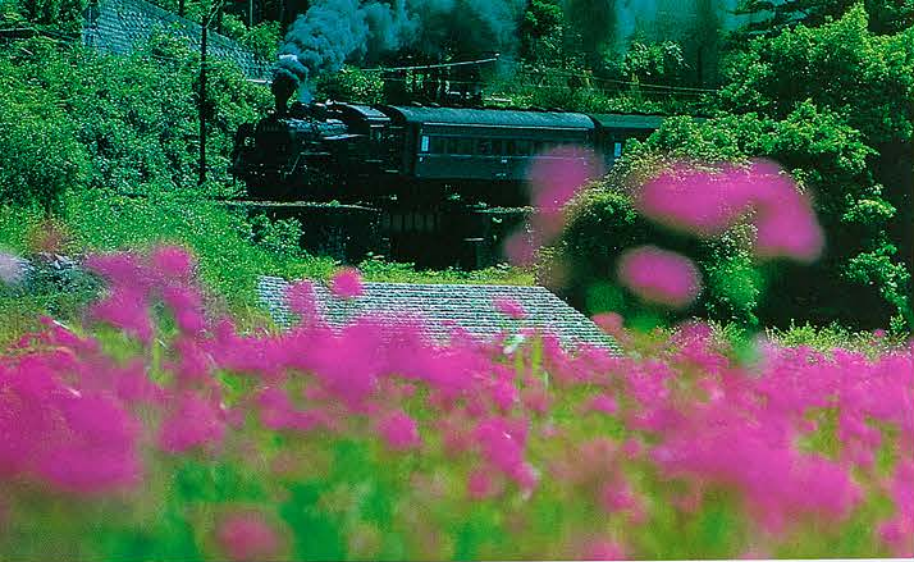
High-Power
Twin Flash



ワンタッチで一眼レフの写真が
撮れる、イメージセレクトボタン。

見たまがくつきり写る、
一眼レフファインダー。

雄大な風景がしっかり撮れる、
ワイド28mmレンズ。



初夏の大井川の河原には、真っ赤なナデシコの花が咲き乱れる。「鋼鉄の馬」が、華麗なナデシコのじゅうたんに迎えられて、その表情も心なしかなごんでいるようだ。(大井川鉄道 塩郷→下泉/C11 227+旧客車5両)

■カメラ：キヤノンF-1 レンズ：ニューFD300mm F4
絞り：f11 シャッタースピード：1/125 フィルム：ベルビア +1EV



真っ白な冬装束に身を包み、灰色の黒髪をたなびかせて雪国を駆ける「鋼鉄の馬」が、華麗なナデシコのじゅうたんに迎えられて、その表情も心なしかなごんでいるようだ。(大井川鉄道 塩郷→下泉/C11 227+旧客車5両)

「ニー」と呼ばれる大変形の可愛らしいSLですが、戦争中タイへ供出されるといって、長く厳しい歴史があつて故障も多く、機関士さんの間でも「運転が難しい」といわれ、評判は良くありません。その年の試運転の日も、調子は決して良くなかったにも関わらず、整備の方や機関士さんの好意で、いつも通り煙も気笛もたくさん出して、素晴らしい走りを見せてくださったんです。たった一人でその走りを見ることができた時、私は「高原のポニー」として一体になったような熱い感動を覚えました。

良い撮影ポイントを選ぶ必要があるのですが、戦争中タイへ供出されるといって、長く厳しい歴史があつて故障も多く、機関士さんの間でも「運転が難しい」といわれ、評判は良くありません。その年の試運転の日も、調子は決して良くなかったにも関わらず、整備の方や機関士さんの好意で、いつも通り煙も気笛もたくさん出して、素晴らしい走りを見せてくださったんです。たった一人でその走りを見ることができた時、私は「高原のポニー」として一体になったような熱い感動を覚えました。

蒸気ならではの幻想的なシーン。SLを追う者にとって「夢限」の可能性を与えてくれる蒸気機関車の息づかい、それが「汽車の煙」である。大井川鉄道 駿河徳山→田野口/逆C11 227+旧客車4両

気象条件・機関車の煙の出具合と、この全てが揃ってはじめて満足いく写真が撮れるわけで、運ませの部分も大きいんです。それだけに、一番後悔するのは自分の技術的なミスですね。



「最近、各地でSLが復活し、我々の仲間も増えてきており、それ自体は喜ばしいことなんです。自分が撮りたい状況を



おか まさき
1962年大阪生まれ。大学2年生の頃より、かねてから好きだった蒸気機関車の撮影に、静岡県の大井川鉄道へ足を運ぶようになる。また1985年から1987年にかけて3度にわたり、中国を訪れ「火車」と呼ばれる巨大な蒸気機関車を撮影。教職に就いた後も、大井川鉄道を中心に撮影を続け、1991年に東京・大阪・名古屋のフジフォトサロンで初の個展「情景・汽笛」を開催。1993年には初の写真集「情景・汽笛」(光村推古書院)を出版。1996年度の大井川鉄道SLカレンダーの撮影を担当。

〈全国の現在SLが走っている路線一覧表〉

鉄道線区名	使用機関車	運転期間
真岡鉄道 下館→茂木	C12 66	3月~11月の指定日
秩父鉄道 熊谷→三峰口	C58 363	3月~11月の指定日
JR東日本上越線 高崎→水上	D51 498 (C58 363)	年間の指定日
大井川鉄道 金谷→三頭	C11 227 C11 312 C56 44 C12 164	年間の指定日 (ただし3/18-12/11は毎日運転)
JR西日本山口線 小郡→津和野	C57 1 (C56 160)	3月~11月の指定日
JR九州豊肥本線 熊本→宮地	58654	3月~11月の指定日

「SLは冬がいい」という声はよく耳にするが、真夏の風景もよく似合う。水田のあせ道で、熊本への帰路を急ぐハチロクを待った。偶然画面に飛び込んできた一匹のトンボが、ハチロクとともに飛び去っていった。(JR九州豊肥本線 原水→三里木/58654 十客車3両)



蒸気機関車の「生命」を守り続けておられるのが、SL研修部の方々。SLのことなら隅から隅まで知り尽くしているという、大井川鉄道SL研修部の大長さんはじめ、超ベテランの方々がこれまで何度もSLの生命を救ってこられた。(大井川鉄道 新金谷機関区/C56 44整備中)

■カメラ：キヤノンF-1 レンズ：ニューFD24mm F2 シャッタースピード：1/15 フィルム：ベルビア +1EV

鉄道写真の世界

人との絆を育みながら、SLの情景を撮り続けたい。

岡 正樹氏<SL写真家>

THE
フォトワールド
③

SL(蒸気機関車)は、昭和40年代の後半、当時の国鉄による動力近代化の方針のため完全廃止されることになり、それを惜しむファンによる一大ブームが起こった。そして一時は完全に姿を消したSLだが、その後こうした根強いファンの声によって再び復活させる路線も現れ、現在いくつかの場所で、主にマニアや観光客相手に運転が行われている。

今回お話を伺った岡正樹氏も、小学生時代にSLブームが起こり、今はじきSL写真家・原元氏の写真集に惹かれてファンになったという。そして静岡県の大井川鉄道にSLが復活した後に、本格的に写真を撮り出し、現在も月に1度は大井川に通っている。

岡氏の写真集を拝見すると、SLたちがあたたかも生命や表情を持っているかのように力強く迫ってくるのと同時に、「日本にもまだこんな情景があったのか」と一種の懐かしさがこみ上げてくる。そして彼がこの写真集を作ることができたのも、大井川鉄道をはじめとした、全国のSL運転に関わる人々との人間関係によるところが大きいと岡氏は語る。

「最初はSL写真の先輩に誘われて始めたんですが、大井川鉄道の機関区で、早朝の出発準備の時間に、SLのナンバプレート磨き、マキ運び、動輪等の清掃作業を手伝わせてもらうようになり、機関士さんたちとも仲良くなつたんです。今のSLは地元の公害にならぬよう無煙炭を使用しているため、煙はほとんど出ないのです。それで我々がその日の撮影地を紙に書いて機関士さんをお願いすると、撮影ポイントで煙をたくさん出してくださったり、汽笛を鳴らしてくださったりと、協力していただけるようになったんです。」

機関車の煙の良し悪しというのは、SL写真にとって大きなポイントとなる。煙の色は季節によって、黒・白・灰色と変化し、その形もスピードや風向きなどによって盛り上がり、細くたなびいたりする。つまり煙によって機関車の「表情」が作られるのだ。だから彼のSL写真は、彼も認める通り機関士さんとの共同作業だと言っても過言ではない。「思い出深いのは、大井川鉄道で私が一番気に入っているC56 44号機の試運転のシーンです。大井川のSLは年に1度、定期点検を受けます。整備後の試運転は通常の営業運転と違って、客車を牽引しないと、牽引しても1両だけという特異なスタイルで行われるので、いつもとは違ったSLの表情が撮影できるんです。C56 44号機は、高原のポ



夏の湖北路には、高原のポニーがよく似合う。愛らしい小馬の単機試運転。私自身、一番気に入っている機関車である。JR西日本北陸本線 虎姫→長浜/C56 160単機

キヤノン編

独自の開発思想と技術で、カメラユーザーの拡大を目指す。

キヤノンといえば、AFカメラのEOSシリーズをはじめ、常に話題性の高いカメラを我々に提供してくれるメーカーだ。今回は、時代のニーズを視野に入れながらも目先の競争に固執せず、独自の研究開発の成果を製品に反映させているキヤノンを訪ねてみた。

戦前より高級機を追求し続けたキヤノンの開発理念。

キヤノンのルーツは1933年に創立された「精機光学研究所」。その後1935年に「キヤノン」としての商標登録が行われ、翌年に記念すべき第1号機カメラ「ハンザキヤノン」が発売された。

当初キヤノンは高級機を指向し、いわゆる「35mmフォーカルフレーン距離計連動カメラ」において、IVSbをはじめ、数々の名機を開発。そして1950年代にはカメラ業界が一眼レフに力を入れ出し、キヤノンとしては1959年のキヤノンフレックスから一眼の歴史が始まる。一眼レフの開発では他社に一步遅れをとったが、高級機を追求するキヤノンの理念は1971年、当時の最高級機といわれたF-1の登場によって結実し、その高い技術は一躍注目を集める。



キヤノンAE-1(1976年)
シャッター速度優先式のTTL・AE一眼レフカメラ。CPU機構を搭載した電子カメラで、電池室カバーのふくらみが、その後のAシリーズカメラにおけるハームクリップの原点になっている。



キヤノン販売機カメラ販売事業部 大平温副事業部長

日本のカメラ史に残る数々のヒット商品をリリース。

AE-1が出た1976年当時、一眼レフのトレンドはAE(自動露出)化に向かっていった。各社競ってAEカメラを発売していたが、値段も当時で10万円前後とまだ高く、気軽に買えるタイプのカメラではなかった。

「AEカメラの低価格機を作って普及させたい。そのためには従来のカメラから、単に部分的なメカだけでなく、設計開発理念そのものを変えていく必要があったんです」と語るのには、キヤノン販売機カメラ販売事業部・副事業部長の大平温氏。

AE-1は、CPUというマイコン制御機構を初めて搭載した機種として知られるが、これを採用したことが、安くて軽いカメラを生み出すことにもつながってゆく。この製品を作るために工場を新設し、それまで行なわれていた人間による手作業に代わり、現在工業ロボットといわれているようなフルオートのプロ生産ラインを構築。生産における大幅なコストダウンに成功し、50mm F1.4のレンズ付



キヤノン機カメラ11設計室 鈴木政行室長

「このEOSに関しては、競合他社に勝つと



キヤノンEOS-1N(1994年)
現在のキヤノン代表機種・EOSシリーズの最新機。プロ仕様のAFカメラとして、高速連写や動物予測測をはじめとして、キヤノンの誇る数々の優れた機能が搭載されている。



キヤノン販売機商品計画課 川名広義課長

「ユーザーが必要な時に、必要なアクセサリをプラスでき、その機能を享受できる。システムカメラ」を初めて実現したのが、このF-1だったんです」と語るのには、キヤノン販売機商品計画課長の川名広義氏。

このカメラの特長は機能だけに留まらない。シャッターを連続10万回以上切るテストに耐え、マイナス30℃の極寒の環境でも機能するという並はずれた耐久性。そしてF-1に合せて開発されたFDレンズの性能とも相まって、最高級機と呼ばれるに至ったのである。

1970年代の後半になると、キヤノンはAE-1、A-1と、若者を中心に支持を得た名機を次々に発売する。

「連写一眼」というコピーによる広告展開でユーザーに強くアピールしたこともあり、AE-1は最終的には世界中で約600万台という驚異的なセールスを記録し、この販売数を超えるカメラはその後出ていない。

一方のA-1は、露出などの設定に初めてデジタル方式を導入した高級機だが、プログラムオート機能も備えているのが特長だ。

「当時はプログラムという、安いカメラ」というイメージがあり、これを付けることには社内でも意見が分れました。プロカメラマンの方々は「プログラムなど絶対に使わない」という風潮だったんですが、このカメラをお貸しすると、必ずプログラムにセットされて返ってくるんですよ(笑)」と当時のエピソードを語るのには、キヤノン機カメラ11設計室長の鈴木政行氏。このカメラはプロの評判が宣伝効果を生み、ハイアマチュアを中心としたユーザーに受け入れられたという。

その後、1980年代後半から、カメラはAF(自動焦点)機の時代へと移り、キヤノンは現在の代表機種EOSシリーズの第1号機・EOS650を1987年に発表する。

「このEOSに関しては、競合他社に勝つと

いうよりも、その後の発展性や未来図を視野に入れて開発しました」と川名氏は語る。そして1989年、シリーズの頂点に立つ最高級機・EOS-1が誕生。高速連写や動態予測などの機能を持つこのカメラは、オリンピックをはじめスポーツ撮影で活躍するほか、数年前の湾岸戦争の報道では、その高い防滴・防塵性が証明された。戦地での過酷な撮影条件の中で、他社のカメラは動かなくなっても、EOS-1だけは何となく動いたという。

その後のEOSシリーズには、初の視線入力機能で話題になったEOS-i5、女性向けに開発されたEOS-i Kissなど、一般ユーザーをターゲットにしたものから、EOS-1をさらに発展させた最新機・EOS-1Nまで、様々なタイプが登場している。

「プロやハイアマチュアの方々の、多様化するニーズやシチュエーションごとの使い分けに対応してゆくとともに、カメラユーザーの底辺拡大も、大きなテーマとして追求してゆきたいと考えています」と大平氏は言う。これからもEOSシリーズを中心とした、キヤノンのカメラの発展に注目したい。



ハンザキヤノン(1936年)
キヤノンの、そして日本製カメラの第一号機。ハンザとはこのカメラの販売元となった近江屋写真用品店のブランド名で、カメラ上部カバーに彫刻されている「Canon」マークの前面に、「HANZA」と小さく記されている。



キヤノンIVSb(1952年)
35mmフォーカルフレーン距離計連動カメラの歴史に名を残す名機。キヤノンにおける初期の製品開発の流れの中で、ストロボの接点やボディの素材など、随所に改良が施されている。

キヤノンF-1(1971年)
キヤノンが長年の歳月をかけて開発した、当時の最高級システムカメラ。着脱式のペンタプリズムを持ち、露出計はTTL開放測光式。サーボEMファインダー、モータードライブ装置をはじめ、各種のアクセサリが使用できる。



キヤノンA-1(1978年)
マルチモードのTTL・AF一眼レフカメラ。フィルム感度・絞り値などの情報をすべてデジタル信号として導入し、デジタルICで制御する方式を採用している。

映像と情報の体験スペース、キヤノンワンダーランド幕張に話題集中!

千葉県の幕張に、昨年5月にオープンした「キヤノンワンダーランド幕張」が、今、写真・映像ファンの中で話題になっています。この施設の主内容のひとつは、キヤノンがさらなる写真文化の発展を願って開設した「フォトアートコレクション」。日本を代表する優れた写真作品の展示や、約数千冊の貴重な書籍・写真集を集めたライブラリーが常設されています。

そして、映像と情報の新たな創造を目指した「ワンダーミュージアム」。最新のデジタル技術や、話題のアーティスタの作品を五感で体感できます。



■所在地/千葉県千葉市美浜区中瀬1-7-12
キヤノン販売本社ビル ■問い合わせ先/043-211-9541 ■営業時間/平日の10時~17時
■定休日/土・日・祝日(12月29日~1月4日も休みにあります)

シャッタースピードを操作して写真表現の幅を広げよう

写真提供：①～⑤ キヤノンEOS学園
⑥⑦ ベンタックス

写真は一枚の「静止画像」の世界です。静止画像という一見、時間が失われた、一瞬の動きの止まった世界のように思われますが、写真によっては、たとえば草木が風にたなびいて見えたり、逆に岩場にはじけた水滴の1粒1粒の、肉眼ではとらえることのできない一瞬を写しとった作品もあります。写真の中の、被写体の動きや時間は、決して一様ではないのです。

この、写真における被写体の動きを表現する場合、重要な役割を果たすのがシャッタースピードです。このシャッタースピードを操作することによって、動きや時間を感じさせる

作品ができるのです。

シャッタースピードを操作して自分のイメージする写真を撮るためには、目安とするために、まず被写体を通常撮影する場合のシャッタースピードを知っておく必要があります。もちろん、被写体によって速い遅いがありますので一概にはいえませんが、日常生活の中での人の動きは1/125～1/250秒で、ほぼブレのない写真が得られます。さらに動きの速い、たとえばスポーツ写真などを撮る場合ではより高速なシャッタースピードが要求されます。

逆に、たとえば被写体をわざとブラしてス



①1/8秒。動きのある川を低速で撮ると、川の流れが糸状に写る。



②1/30秒。スピードのついている被写体を低速で撮ると、被写体がブレて動きが強調され動いているものは形も分からない。



③1/500秒。②と同じシーンをシャッタースピードを早くして撮った。高速シャッターでは被写体の動きは感じられなくなる。

ピード感を表現する場合もあります(写真②)。(7)こうした場合にはスローシャッターとい

って低速のシャッターを切り取ります。このスローシャッターの場合は、1/30秒より遅いシャッタースピードというのが一応の目安ではありませんが、これもやはり被写体の条件によって変化します。時おり見かける、川の流

を糸状に白くブラした写真(写真①)では、シャッタースピードは少なくとも1/8秒以上の遅いものとなります。

高速シャッターであれスローシャッターであれ、自分のイメージ通りのスピード感を表現するためには経験がいります。最初は段階

的に何枚もシャッタースピードを変えて撮影し、こまめにデータを取っておいて、「この場面では、このシャッタースピード」というように、ひとつひとつ覚えていかなければなりません。

オートの一瞬レフの場合、シャッタースピードの操作は具体的にはシャッター優先モードで行ないます。この場合、シャッタースピードは自分の望む値に固定することができま

すが、露出はカメラまかせになるために、背景のボケなどを操作することはできません。マニュアルモードにすれば、ある程度は背景のボケも操作することができ、絞り、露出・シャッタースピードのすべてを自分で

設定しなければならぬため、経験を要します。初心者の方はまずシャッター優先モードで数多くの写真を撮り、シャッタースピードに慣れたうえで、マニュアルモードに挑戦することを勧めます。

基本的なテクニック

流し撮り 被写体のみとらえて背景をブラし、スピード感を表現する方法です。動いている被写体と同じスピードでカメラを平行に動かし、シャッターを切りますので、慣れを要します(写真④)。この方法でスピードを出している車や電車を撮影する場合は1/60秒程度、もっと遅いメリーゴーランドなどでは1/30秒程度を目安とするといでしょう。

シャッタースピードをこれより長くすると、被写体ごとブレてしまい、何を撮ったのか分からなくなったりしますので、注意が必要です。**露きピン** 特にスポーツ写真やレース場をよく用いられます。あらかじめ撮影したい場所にカメラをすえてピンとシャッタースピードを合わせておき、被写体が入った瞬間にシャッターを切ります(写真⑥)。この方法を用いて撮影する場合は、被写体の動きを、ある程度事前に予測できなければなりません。たとえばスポーツ写真ですとスポーツのルールをよく知らない、幸運に恵まれないかぎりシャッターチャンスは得られません。

傾向としては高速シャッターの場合は力強さや迫力が、スローシャッターの場合は、情感が強調されやすくなります。たとえば川を撮影する場合でも、男性的な激流の場合は高

速シャッターで飛び散るしぶきまでとらえ、迫力を強調し、おだやかで女性的な小川のせせらぎなどを撮影する場合は、背景を入れてスローシャッターでソフトにおさえた方が効果的です。

とはいえ、これは一概にきめつけられるものではなく、高速シャッターの写真にも情感を感じさせる作品はありますし、スローシャッターの写真の中にも力強い、迫力のある作品はあります。結局のところ、作者の感性で選択するしかありません。それだけに、腕の見せどころでもあるわけです。

シャッタースピードとフィルム感度

シャッタースピードとフィルムとは密接な関係があります。高速シャッターになればな

るほど、絞りは開放に近づきますから、被写界深度は浅くなり、その分ピントには精度が要求されるようになります。ですから仮に高速シャッターを選びながら、深度を深くしつつバックを生かしたい場合には、ISO感度の高いフィルムを選ぶ必要があるわけです。逆にスローシャッターでは露光時間が長いので、どうしても光を撮り込みすぎてオーバーギミの写真になりやすく、これを避けるために光の弱い朝夕に、感度の低いフィルムを選んで撮影したりするわけです。また、コントラストに影響を与えないNDフィルターを使用しスローシャッターを切る方法もあります。また、スローシャッターの場合は露光時間が長くなるため、三脚とレリーズは必需品となります。



⑤長時間露光15秒。車のヘッドライトが軌跡となって描き出される。長時間露光で得られる特殊効果だ。



④流し撮り1/15秒。背景が流れて被写体が鮮明に浮き上がる。流し撮り独特の効果だ。



⑦1/30秒。⑥と同じシーンをシャッタースピードを遅くして撮った例。



⑥高速1/1000秒。走っている車も高速シャッターで撮ると止まっているように見える。

写真⑥⑦はペンタックスZ-70Pで撮影

RICOH

コンパクトの価値を進化させて、
R1sデビュー。



驚きの薄さ
25mm
(グリップ部を除く)

R1s

カラー/プラチナムシルバー、グレイッシュグリーン、チタニウムブラウン メーカー希望小売価格 41,000円(税別、送料込)

★★★★★

「コンパクトカメラ オブ ザ イヤー」アマチュアフォトグラファー誌(イギリス)
「カメラクラブ」95・カメラ記者クラブ特別賞「カメラ記者クラブ(日本)」「ベスト フィックスド レンズコンパクト1995」バインカメラ誌(イギリス)
「オーストラリアン コンパクトカメラ オブ ザ イヤー」
オーストラリアンカメラ誌(オーストラリア)
「ベスト ホワッツ ニュー」ポピュラーサイエンス誌(アメリカ)

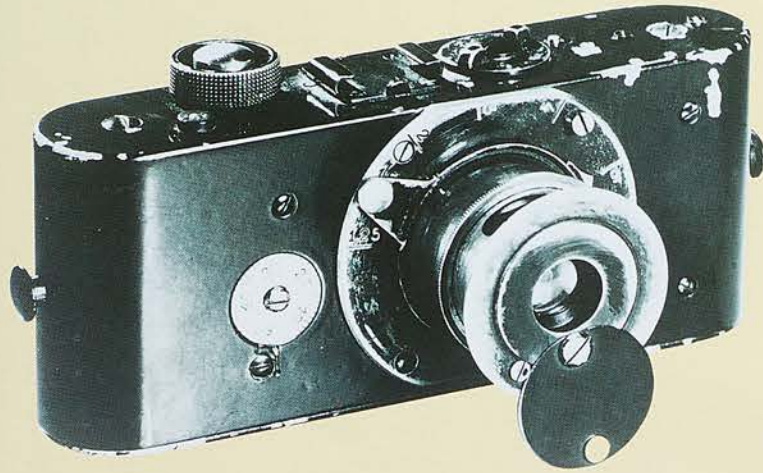
R1

リコーR1は、国内外で、5つの賞を獲得

株式会社リコー 光学事業部 〒140 東京都品川区東品川3-32-3 TEL.03(5479)2901

今も生き続ける ライカ神話

知って得する写真おもしろ話⑦



1914年にオスカー・バルナックが作った、世界で最初の35ミリステルカメラの試作品。ウル・ライカと呼ばれていて、世界に2台しかない。

1900年代初頭までは、カメラといえば9×13センチというガラス乾板を使ったもので、大きくて重く、今日のカメラと比較した場合、持ち運びはもとより、撮影にも不備な道具でした。当時、ドイツの著名な光学メーカーであったエルンスト・ライツ社が開発担当部長をしていたオスカー・バルナックは、もっとハンデリーなカメラができないものかと工夫を重ね、1913年に映画用の35ミリフィルムを使って小型カメラの試作品を作りました。これが世界で最初の35ミリステルカメラで、これにさらに工夫を加えて発売され

戦後でもライカ一台の値段は一般の日本人の平均年収を大きく上まわっていました。ライカを持つていたということは、金持ちのステータスでもあった時代で、古くからカメラを愛好されていた方の中には、相当な勇気をふり込んでライカを購入された方も少なくないはず。しかし、ライカは単に高価なカメラだっただけではありません。世界で初めて交換レンズを用意したのも、交換レンズと連動した距離計をカメラに内蔵したのもライカです。今では当たり前となったレバー式のフィルム巻き上げも、ライカが最初に商品化したもので、それまではノブを回して巻き上げていた。ライカは現在のカメラのバイオニアでもあったのです。ライカの評価は機能の面ばかりではありません。その高い精度も戦前から世界が認めるところでした。戦後、世界中のカメラメーカーは多かれ少なかれ、ライカを意識し、目標としながら新製品を開発していました。日本のカメラメーカーも例外ではありません。その当時ではライカはカメラの代名詞でさえあったのです。そうした意味で、ライカは今日の日本カメラ業界における隆盛の生みの親でもあります。日本製のカメラが世界に認められた今日でも、ライカの根強いファンはたくさんいます。熱狂的なライカのファンはM3とかM4といったカメラのタイプではなく、1台1台が固有に持っている製品番号でライカのカメラを呼び表わします。これは愛されているカメラも少ないのではないのでしょうか。今年に入ってライカは、ミニルックスというコンパクトながら美しいカメラを発売しました。搭載しているレンズは40ミリ。広角レンズやワイドレンズ搭載の機種が多く発売される中で、40ミリは小さく感じますが、レンズのヒズミの問題を考慮して



最高クオリティを追求すると、この口径になるのだそうです。また、カメラにとっては過酷とも思えるライカの厳しい検査を通過しない製品は、ライカの製品として認められません。こうした頑固なまでの製品に対するライカのこだわりには、今も変わらぬ、カメラに対する情熱が感じられます。

中央上が1954年に発表されたライカの名作M3。この機種を覚えていたオールドファンも多いのではなかろうか。左下が1975年に発表されたライカM4。右下が現在も製造・市販されているライカM6。ライカMシリーズの40年を記した3機種である。



新発売

この一眼レフは、ちょっと違う。思わず触りたくなる質感。手にしっくりくるフォルム。そして、目に見える使いやすさ。2つのダイヤルに撮影モードを集中。高度な機能も、正確にスムーズにコントロールできる。そのうえ、世界最小の軽量ボディを実現。ペンタックス(MZ-5)。久しぶりに、こんなにドキドキする一眼レフに会えた。



ダイヤル式小型・軽量AF一眼
世界最小AF一眼
MZ-5

希望小売価格(税別)
MZ-5クォーツデットボディ(ブラック/シルバー)……73,000円
MZ-5クォーツデットFAズム28~70/4AL付……103,000円
※平成7年10月12日現在、レンズ交換式35mmAF一眼レフで世界最小。

〒100 東京都千代田区永田町1-11-1 旭光学工業株式会社

京セラ株式会社

日本のカメラはこれになりました。
ありがとうございました。



カメラグランプリ'95受賞

CONTAX G1

●メーカー希望小売価格/本体：143,000円、ブラナーT*45mm F2：37,000円、ゾナーT*90mm F2.8：47,000円、ピオゴンT*28mm F2.8：57,000円、ホロゴンT*16mm F8：280,000円(消費税抜き価格) ●お問い合わせ：光学機器事業本部〒150 東京都渋谷区神宮前6-27-8 TEL.03-3797-4611(代)

入選作品発表!!

最優秀グランプリ

(1名)賞金10万円と楯

「凝視」嶋本一生様(奈良県橿原市)



「凝視」トロンボに対する強い関心と、ワンバクそうな力強さ、そしてトロンボを柔らかくつまんでいる優しさなど、男の子が持つ色々な面が、一枚の写真から伝わってきます。望遠レンズによりバックの緑や木漏れ日をボカすことで、自然に囲まれた情景や夏の空気感を感じさせます。



嶋本一生さんを橿原市森井店長がインタビュー
森井店長 撮影された時の状況は？
嶋本さん 7月下旬の晴れた朝に、息子と二人で近くの公園に虫捕りに出かけた時の一枚です。
森井店長 作品の狙い、撮影時の注意点は？
嶋本さん 子供の好奇心を表現しようという心がけました。視点が子供の目とトロンボにいくように望遠で近づき、背景を省略するようにしました。カメラに三脚がセットされていたのが良かったです。
森井店長 受賞された感想は？
嶋本さん 今までは写真を撮っても自己満足していた程度ですが、今回の受賞を機会に第三者に評価してもらえたいと思います。森井店長談 家族・風景・ネイチャーと幅広く撮影しておられ、いつも温厚で礼儀正しいお客様です。

第3回を迎えた「チビッコ写真コンテスト」には、約7,700点もの多くの応募をいただきました。その中から見事に上位入選された作品をここに発表させていただきます。

審査員作品総評

応募作品にはそれぞれ撮った方の思い入れが感じられ、選考は本当に苦労しました。その中から上位に入選した作品というのは、それぞれ写真から伝わってくるドラマや一瞬の表情などがあり、思わず共感できる微笑まじさが感じられました。子供は思うようなポーズや動きをしきれないので、意外と写真撮るのが難しいものです。したがって入選するためには子供を良く観察して絶好のシャッターチャンスを見逃さないとともに、数多く撮っておくことが大切だと思います。



審査員 沼田早苗さん
大竹省二スタジオの助手を経て、78年フリーランスとなり、徳展「男の素顔」を全国で開催。86年、「ほくのおじいちゃんのかお」を出版。徳展「私の写真集・PART 3」をコンタックスサロンで開催。「ラ・セーヌ」女の歳時記「潮」奥様拝見。「財界」表紙連載中。「94年、徳展「私の写真集・PART 4」をJCIIで開催。

最優秀賞

(5名)賞金5万円と楯



「チビッコラビー」中目雅博様(北海道函館市) 動きの中の一瞬を切り取った、ユーモラスな作品。色々なタイプの子がひとつの画面にいるのも面白い。
「焼鳥」林隆幸様(大阪府箕面市) 父親の真似をする、ちょっと生意気な子供の様子を良くとらえており、周りの雰囲気も効果的。
「しかれて」青木尚一様(兵庫県姫路市) 子供の目つきや隠れ方に、気持ちが良く表れています。子供達と自転車の後輪を中心にした構図も良い。
「水遊び」石田理恵子様(福岡県福岡市) のどかな環境の中で水遊びをし、のびのびと育つ子供の様子が伝わってくる、さわやかな作品です。
「電車バイバイ」原田光様(福岡県山門郡) 夏のひとときのなごんだ様子がよく出ており、電車に手を振る子供の後ろ姿に詩情を感じる作品です。

優秀賞

(10名)賞金3万円と楯



「初めのクッキー作り」森本勝様(北海道旭川市)
「水大好き」中島展博様(東京都羽村市)
「店先」西尾美代子様(静岡県清水市)
「赤ちゃんをボク」糸山みづほ様(三重県四日市市)
「夏になれば子ども泳ぎ」木戸秀隆様(兵庫県加古郡)
「だれが黒いぞ」吉江範子様(大分県中津市)
「真夏の夕立」坂下裕幸様(宮城県北郷郡)
「食い気味の眠気」木下清法様(福岡県福岡市)
「お披露目」丸岡孝子様(徳島県板野郡)
「お披露目」伊藤美穂様(三重県四日市市)

キタムラ・インフォメーション

この冬のイベント撮影はデジタルビデオカメラで

今やビデオもデジタルの時代
高品質・高機能の機種が続々登場!

アナログからデジタル化が図られたことで、種々の分野で飛躍的な小型化や機能性の向上が見られますが、ビデオカメラもデジタル化が進められ、本格的なデジタルビデオカメラが登場してきました。この秋に発売されたこれらのデジタルビデオカメラはいずれも高画質・高音質で高い信頼性を実現しています。またDV方式のテープを各社が統一して採用しており、互換性があることからお客様にとってのメリットも高くなっています。

そこで、この秋に発売された多くのデジタルビデオカメラの中から、代表的なソニー、パナソニック、ビクターの3社のデジタルビデオカメラを紹介いたします。

カメラ一体型VTR ソニーデジタルハンディカム2機種

DCR-VX1000/VX7000は「民生用デジタルVCR仕様(SD仕様)」を初めて採用したカメラ一体型VTRで、高画質と臨場感あふれるステレオ音声(PCMデジタル方式)が楽しめます。

VX1000は総画数41万画素(有効画素38万)のプレジジョンCCDを3つ採用した3CCDカメラシステム。映像や音声をデジタル信号のまま1本のケーブルで接続できるDV端子を装備し、劣化の少ない編集ができます。家庭用としては初めて「マグネシ



ソニーデジタルハンディカムVX-1000



パナソニック・デジタルビデオカメラNV-DJ1

ウム合金ダイキャスト」をメインフレームと外装の一部に採用、優れた強度、洗練された質感を実現しています。

VX7000は好みに応じた映像が表現できる「デジタルエフェクト」や撮影時の演出効果をも高める機能を搭載し、多彩な演出を可能にしています。

2機種とも画質劣化の少ない、アクティブプリズム方式手振れ補正機能、やフレーム間の被写体の動きによるブレを抑えて鮮明な静止画像記録ができる「フォトモード撮影」など使い勝手を考慮した機能を搭載しています。また、カセットテープは「ミニデジタルカセット」で30分と60分の2種類。従来になかった特長としてはメモリーIC内蔵、録画日時などの目次情報が記録でき、シーンの検索

パナソニック・デジタルビデオカメラ NV-DJ1「デジカム」

デジタルが持っている機能をフルに発揮させることを目的として登場したDJ1は、DJメカと3CCD搭載により高画質、高音質を実現。自動プリントが可能で高画質静止画によるデジタルフォトショット機能(同社のビデオプリンターとの組み合わせでプリントアウトが可能)、60分で約580枚の記録が可能(上下120度可動式)大口径ファインダーなどの特長と機能を備えています。

価格 NV-DJ1「デジカム」¥275,000
0 テープ30分 ¥90,000 60分 ¥110,000

世界最小のビクター「ポケット デジタルムービーGR-DV1」

小型、携帯性を徹底的に追求したGR-DV1は、高画質、高音質のうえ、20倍ズームなどデジタルの特性を最大限に活かした性能機能を備えています。日本ビクターの調査によると、お客様がビデオカメラに求めているものは①携帯に便利②撮影しやすい③失敗がなくて安心して使える④取り扱いが簡単⑤きれいに撮れる、に集約されているとのこと。それを実現したのが「ビデオポケットデジタルムービーGR-DV1」です。

新開発の超小型メカニズムをはじめ、レンズ、ビューファインダーなどを独自に開発、幅43×高さ148×奥行88mm、本体約450gを達成しました。小型ながら美しい色を再現、キメ細かくクリアな映像に加えて、アフレコ/インサート機能も搭載し、ステレオアフレコも可能です。

価格 GR-DV1 ¥220,000

※各社の価格は本体の標準価格(税別)でアクセサリーなどは含まれていません。



ビクター
ビデオ
ポケット
デジタル
ムービー
GR-DV1



(CONCEPT 2: CLASSIC OPERATION)

手が知っている、という操作感覚。



TIPAヨーロッパベスト一眼レフカメラ賞'95-'96

それは、確実に、しかも安心して使いこなすためのダイヤルやレバーの積極的な採用。手にした瞬間から誰もが迷わず操作できるような「直感的なわかりやすさ」を最優先したカメラ。それがα-507siです。各操作部材には、機能ごとに独立したダイヤルやレバーを積極的に採用。さらに文字や絵記号の表示により、カメラのセッティング状況が一目見てわかるように配慮されています。まるで自分の手が知っていたような、自然な操作感覚が実現した良質な手応え。それは、アナログ指向の方やメカニカルな操作感覚をカメラに求める方も満足させる、ミノルタからのもうひとつの提案です。



良質な手応えがここにある。

α-507si

- ワイドフォーカスエリア(スポットフォーカスエリア選択可能) ●動体予測フォーカス制御 ●3モードAF制御切り替え(ワンショットAF/コンティニュアスAF/自動切り替え) ●高感度AF(EV-1~19(ISO100)) ●AF連動2コマ/秒連続撮影 ●AF補助光機能 ●Pモード(シーン自動判別プログラム) ●Aモード・Sモード・マニュアル ●14分割ハニカム・ボタン測光・スポット測光・中央重点的平均測光 ●スポットAEL機能 ●シャッター速度1/4000秒~30秒・B ●フラッシュ内蔵(ガイドナンバー12(ISO100・m)・手動アップ/ダウン) ●赤目軽減機能 ●ハイスピードシンクロ(5400HS使用時) ●ワイヤレスフラッシュ(5400HS/xi・3500xi使用時) ●測光インジケータ ●露出補正 ●フラッシュ調光補正 ●プレビュー機構 ●2~9コマ多重露光機能 ●ブラケット機能 ●フラッシュブレイク機能 ●ハイポイントファインダー ●視度調整機能 ●ファインアキュートマウント焦点板 ●カスタム設定機能 ●バック途中切り替え可能 ●大きさ:156.0(幅)×98.0(高さ)×73.5(奥行)mm ●重さ:585g(電池別) ●縦位置コントロールグリップVC-507/リチウム電池(2CR5)、単3型アルカリマンガン電池、単3型Ni-Cd電池の3種類の電池に対応可能。★シンクローターミナル付。<希望小売価格(税別)> ●α-507si AFズーム24-85mm F3.5-4.5付... ¥127,000 ●α-507si ボディ... ¥75,000 ●AFズーム24-85mm F3.5-4.5... ¥52,000 ●AFズーム28-80mm F4-5.6... ¥30,000 ●プログラムフラッシュ5400HS... ¥47,000 ●縦位置コントロールグリップVC-507... ¥18,000

■α-siシリーズを詳しく紹介したカタログを差し上げます。官製はがきに住所・氏名・年齢・機種名を記入の上、右記までお送りください。〒108 東京都港区高輪2-19-13 (NS高輪ビル) ミノルタ株式会社 宣伝部 ●α-siシリーズのお問い合わせフリーダイヤル ☎0120-493-881 ●お客様商品相談窓口 ☎(03)5423-7555 ☎(06)271-2641

読者のページ

写友缶ふれあい広場

フォトコーナー



僕は今年の夏、やっとおうちの外で歩けるようになったよ。お兄ちゃんにいじめられることもあるけれど、僕のことがとても気になるよ。



今年の夏は、はじめて二人でバケツ入りをしました。とてもきもちよかったです。

森岡幸子様 岡山県久米郡



「グリーンのお芝生にグリーンの水筒 似合うかしら!?」はすかしかりやの娘はなかなか水筒姿を撮らせてくれません。苦労しての1枚です。

長富智佳子様 山口県山口市



パパが寝てるスキに飲んじゃえ。うまいんだなあ、これがっ!思わずウインクしちゃったよ。

優真子(10か月)の日記より
光嶋美佐子様 岡山県津山市

お便りコーナー



この写真、何だ結婚式の写真ではないかと思われたことでしょう。しかしこの写真を撮りました私には一大事なのです。橋本夫妻が私の撮りました写真で二百枚はがきを作成してくれたのです(橋本夫妻とは、この写真の新郎新婦です)。私は今、四十七才です。

初めてカメラを買ったのは三十二年以上昔で、おもちゃのようなカメラでした。もちろん白黒でピンボケの写真でした。それでもとても嬉しかったものです。貧しい田舎に育ちましたが、物の無い時代で、誰もカメラのような物を持った子供は居ません。カメラを買ったのは母のおかげでした(父は三才の時、死亡しました)。それ以来、カメラは好きです。今から思えば好きなカメラの道へ進めばよかったのかも知れませんが……。写真の枚数は一万枚以上撮っていると思います。が、素人の写真、悲しいかな自分の思い通りに撮れた写真は有りません。今回のこの写真、これを自分が撮ったと言うのも不思議ですが、この時は何の気なしに和気あいあいと撮りました。はがきにしてもらってとても感激しています。私の気持ちおわかり頂けるでしょうか? 写真を撮るのが好きな人でしたら、多分理解して頂けるものと思います。

長谷川了介様 京都府宇治市

お便り&傑作写真 大募集!

このコーナーでは、皆様からの楽しいお便りや、傑作写真にコメントを添えた投稿を募集しています。掲載させていただいた方には粗品を進呈いたします。ハガキ・封書での送り先は、〒222 横浜市港北区新横浜2-4-1 カメラのキタムラ広報室「写友缶ふれあい広場」係まで。お便りは、ファックス番号045-476-0778でも受け付けております。また、お近くの「カメラのキタムラ」に直接お持ちいただいても結構ですので、読者の皆様からのたくさんのご応募をお待ちしています。

編集後記

最近、読者の皆さんから「写友缶」に関するたくさんのお問い合わせをいただきます。そこで今回は、こうした様々なご質問に、まとめてお答えいたします。

- Q. 「写友缶」という名前の由来は? A. 「写真を通じてコミュニケーションを図り、キタムラを中心とした友だちの輪を広げるための、情報を詰めた缶詰」です。
 - Q. 「写友缶」の発行日は? A. 3月、6月、9月、12月の各1日、年4回の季刊です。
 - Q. 「写友缶」は個人発送をしてもらえるのですか? A. 個人発送はいたしかねます。全国のキタムラ各店頭にて差し上げておりますので、お手数ですがそちらでお受け取りください。
 - Q. 「写友缶」のバックナンバーを手に入れることはできますか? A. ご好評につき、在庫がありませんのでご了承ください。
- 個人発送とバックナンバーの件については、皆さんからのご要望が多いにも関わらず、ご希望に添えずに誠に申し訳ございません。スタッフ一同、「写友缶」が読者の皆さんから愛されていることを実感し、これからもより良い誌面作りを心がけてゆきたいと考えております。さて、次号は来年の3月1日発行となる春号。特集ページでは、春にふさわしく「華」をテーマとして取り上げますので、どうぞご期待ください。

プレゼントが当たる! クロスワードパズル

問題: クロスワードに答えて、A~Eのマス

1	2	3	4	5
ク	ジ	A	ツ	
ン	6	ビ	ン	
7	ツ			
ン	8	E	9	ユ
	10	ー	11	B
12	口		13	ウ

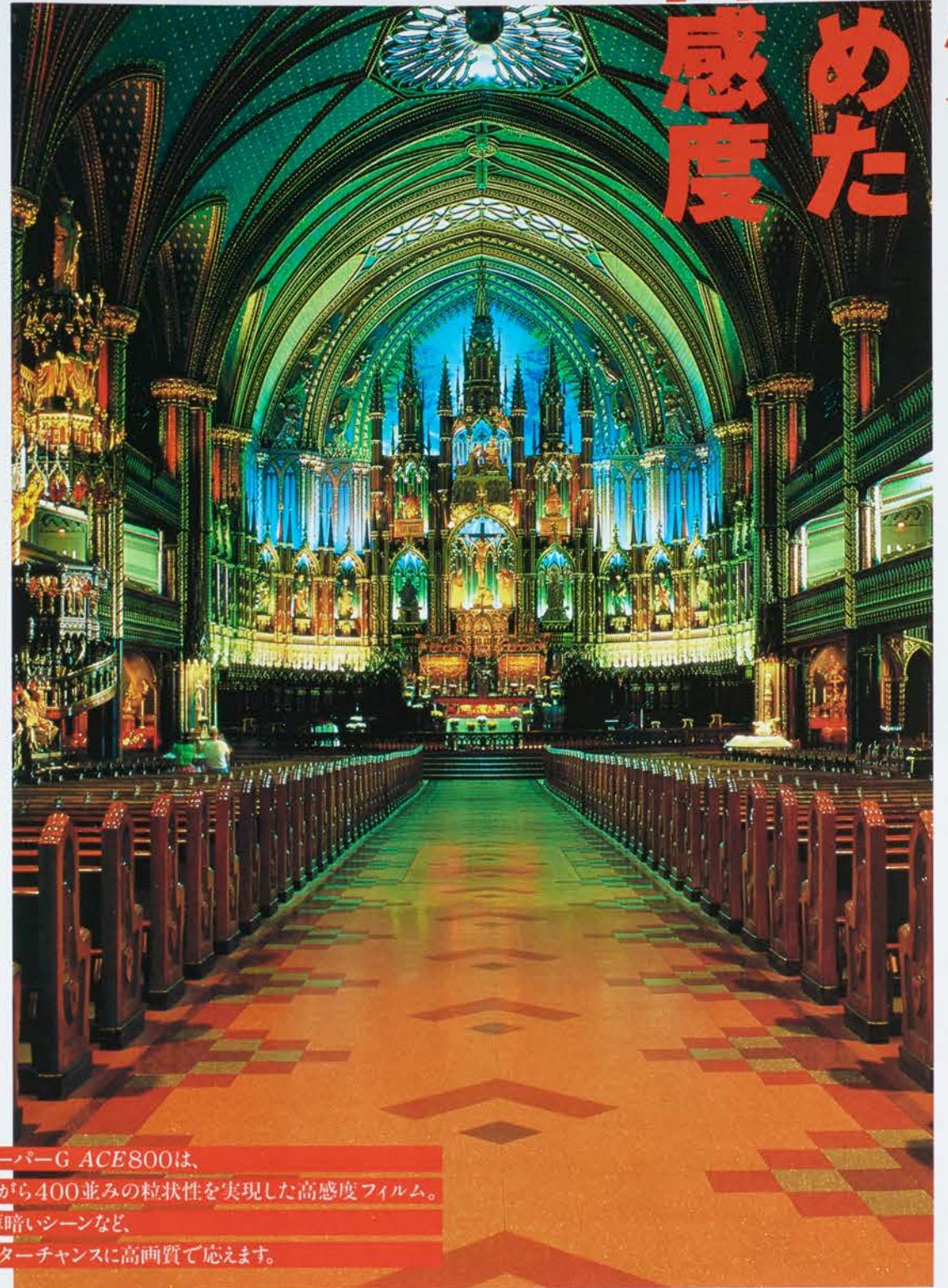
えとあなたの住所・氏名・年齢・職業をハガキに書いてご応募ください。正解者の中から抽選で30名の方に、粗品を進呈いたします。あて先: 〒222 横浜市港北区新横浜2-4-1 カメラのキタムラ広報室「写友缶」クロスワードパズル係 締め切り: 2月29日 (当日消印有効)

答え= ○○○○○ (ヒント: 冬ならではの美しい風景です。)

※前号の正解は「ウンドウカイ」でした。当選者の発表は、賞品の発送をもってかえさせていただきます。

- 1. 小切手やカードではなくお金そのもの。
- 2. 競馬の騎手のこと。
- 3. 子供が約束を交わす時にすること。
- 4. 英語ではフィッシングといひます。
- 5. 薄口は花見。冬は○○○○○。
- 6. 英語ではフィッシングといひます。
- 7. 「ウッドペッカー」って何の鳥?
- 8. 上空の空気の流れのこと。
- 9. 「海」も「彼女」も英語でこういひます。
- 10. 困っている人や団体に金品を差し出すこと。
- 11. 冬の寒い夜はこれにつけて温まりたい。
- 12. 冬の寒い夜はこれにつけて温まりたい。
- 13. 鳥の「鶺鴒」には、川鶺鴒と○○○があります。

高感度 極めた 画質を



フジカラースーパーG ACE800は、
ISO800ながら400並みの粒状性を実現した高感度フィルム。
速い動きや薄暗いシーンなど、
幅広いシャッターチャンスに高画質で応えます。

FUJICOLOR
SUPER G ACE
800

